

「指定就労継続支援（A型）事業」利用契約書

（以下「利用者」という。）と一般社団法人 A 型就労支援施設マリーゴールド（以下「事業者」といいます。）は、利用者に対し提供する指定就労継続支援（A 型）事業について、次のとおり契約します。

（契約の目的）

第 1 条 この契約は、障害者総合支援法等関係法令の理念に則り、利用者の自立と社会経済活動への参加を促進するために、通所による雇用契約等に基づく就労の機会を提供するとともに、一般就労に向けた知識、能力が高まった者について、一般就労への移行に向けて支援するために事業者が個別支援計画に基づき利用者に対して必要なサービスを適切に行うことを定めます。

（契約期間）

第 2 条 この契約の期間は、令和 年 月 日から令和 年 月 日までとします。

2 契約期間満了日以前に利用者が訓練等給付費の決定内容の変更を受け、支給有効期間の満了日が変更された場合には、変更後の支給有効期間の満了日まで本契約は自動的に更新されるものとします。

（個別支援計画）

第 3 条 サービス管理責任者は利用者の置かれている環境及び日常生活全般の状況等を通じて利用者及びその家族が希望する生活や課題を明らかにし適切な支援内容の把握に基づき到達目標を設定しサービス担当者会議を経て個別支援計画を作成します。

2 個別支援計画の内容について利用者とその家族に対し説明し、文書により同意を求めます。

3 個別支援計画作成後、6 ヶ月に 1 回以上定期的に個別支援計画実施状況の把握を行い必要に応じて個別支援計画の変更を行います。変更については利用者とその家族に説明をし、文書により同意を求めます。

（サービス内容）

第 4 条 事業者は、個別支援計画に基づいて、「重要事項説明書」に記載されているサービス内容を提供します。尚、個別の契約内容については別紙の通り契約をします。

2 サービス提供は、事業所の生活支援員等の従事者が当たります。

3 サービスの提供に当たっては利用者の心身の状況に応じ自立の支援と日常生活の充実に資するよう、適切な技術を持って行います。

4 利用者の意思と人格を尊重し、常に利用者の立場に立って、サービスを提供します。

5 常時サービスを利用している利用者が、心身の状況の変化により、5 日以上連続して利用がなかった場合は居宅を訪問して利用状況を確認し、月 2 回を限度として同意の上で支援を行います。

(利用料金)

第5条 利用者は、「重要事項説明書」に記載されている訓練等給付費対象サービス内容の料金（厚生労働大臣の定める額。但し軽減等の適用あり。）の所定の利用者負担額を支払います。ただし、訓練等給付費等については、事業者が市町から代理受領をした場合は、利用者は直接支払う必要はありません。

- 2 事業者は、利用者が訓練等給付費対象外サービス内容を受ける場合は料金を請求します。
- 3 事業者は、サービス利用に当たって、あらかじめ利用者に対しサービスの内容及び料金について説明を行い、利用者の同意を得ます。

(利用料の支払い方法)

第6条 利用者は前5条に定める利用料金を月ごとに支払います。

- 2 事業所は、当月の利用料金合計額の請求書を翌月15日までに送付します。
- 3 利用者は、当月の利用料金の合計金額を、翌月末日までに支払います。
- 4 事業者は、利用者から利用料金の支払いを受けた時は、利用者に領収書を発行します

(生産活動と工賃の支払)

第7条 事業者は、個別支援計画において生産活動の内容を定め、利用者に対して生産活動の機会を提供します。

- 2 利用者の心身の状況や意向、適正、障害の特性、その他の事情を踏まえて行います。
- 3 作業時間、作業量が利用者に過重な負担とならないように配慮します。
- 4 生産活動の機会の提供に当たっては、防塵設備又は消火設備など安全に配慮します。
- 5 事業者は、生産活動における事業収入から必要経費を控除した額に相当する工賃を生産活動に従事された利用者に支払います。

(就労に向けての支援と賃金の支払)

第8条 事業者は、個別支援計画において職場実習の実施や、求職活動の支援の実施、職場定着の為の支援を行います。

- 2 公共職業安定所、障害者就労、生活支援センター等の関係機関と連携を取りながら就労に向けての支援を行います
- 3 利用者の心身の状況や意向、適正、障害の特性、その他の事情を踏まえて支援を行います。
- 4 事業者は、就労にむけての支援（職場実習・トライアル雇用等）における事業収入から必要経費を控除した額に相当する賃金を従事された利用者に支払います。

(他のサービス提供者との連携)

第9条 事業者は、地域や家庭との結びつきを重視し、市町等の外、障害者福祉の増進を目的とする事業を行う者、その他の保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との連携に努めます。

(説明義務)

第10条 事業者は、契約に基づく内容について、利用者の質問等に対して適切に説明します。

(サービス利用のキャンセル)

第11条 利用者は、サービスのキャンセルについて、サービス利用日の5日前までに申出てください。

(相談及び援助)

第12条 事業者は利用者及びその家族が希望する生活や利用者の心身の状況等を把握し、適切な相談、助言、援助を行います。

(健康管理)

第13条 事業者は、常に利用者の健康の状況に注意するとともに、健康保持のための適切な措置を講じます。

2 事業所は、常に利用者の家族との連携を図ると共に、医療機関との連絡調整を通じて健康保持のための適切な支援を行います。

(安全配慮義務)

第14条 事業者は、サービスの提供にあたって、利用者の生命、身体の安全確保に配慮するとともに、非常災害及び衛生管理等に必要な具体的な計画、連絡体制を講じています。

(緊急時の援助)

第15条 事業者は、利用者に病状の急変が生じた場合、その他必要な場合には、速やかに協力医療機関又は利用者の指定する医療機関での診察を依頼します。

2 前項のほか、利用中に利用者の心身の状態が変化した場合、利用者及びその家族が指定する者に速やかに連絡します。

(身体拘束の禁止)

第16条 事業者は、利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除いて、身体的拘束その他利用者の行動を制限する行為を行いません。

(虐待防止のための措置)

第17条 事業者は、利用者に身体的、精神的苦痛等の虐待を防止するため、責任者を設置し、サービス提供担当者に虐待防止啓発のための定期的研修を実施します。

(秘密の保持)

第18条 事業者は、業務上知り得た利用者やその家族等の秘密を保持します。

2 事業者の職員であった者について、業務上知り得た利用者やその家族等の秘密を保持させるため、職員でなくなった後においても、これらの秘密を保持すべき旨を、職員との雇用契約の内容としています。

3 事業者は、他の指定障害サービス事業者等に対し、利用者に関する情報を提供する

際は、あらかじめ文書により利用者の同意を得ます。

(苦情解決)

第19条 利用者及びその家族は、事業者が提供したサービスに関して苦情がある場合は、いつでも「重要事項説明書」に記載されている苦情相談担当窓口及び運営適正化委員会等に苦情を申し立てることができます。

2 事業者は、苦情が申し立てられた時は速やかに事実関係を調査し、その結果、改善の必要性の有無及びその方法について、利用者または家族に文書で報告します。

3 事業者は、利用者及びその家族が苦情申し立てをした場合にこれを理由として利用者に対し、一切の差別待遇をしません。

(契約の終了)

第20条 利用者は、指定就労継続支援(A型)の利用の契約を終了する場合は2週間以上の予告期間をおいて文書で事業者に通知することによりこの契約を解除することができます。また、事業者もしくはサービス提供担当職員が以下の事項に該当する行為を行った場合には、利用者はただちに契約を解除することができます。

(1) 事業者若しくはサービス提供職員が正当な理由なく契約に定める障害福祉サービスを実施しない場合。

(2) 事業者が秘密の保持(守秘義務)に違反した場合。

(3) 事業者が社会通念に逸脱する行為を行った場合。

(4) 他の利用者が利用者の生命・身体・財物・信用を傷つけた場合もしくは傷つける恐れがある場合において事業者が適切な対応をとらない場合。

2 事業者は、やむを得ない事情がある場合には、利用者に対し、2週間の予告期間を置いて理由を示した文書で通知することによりこの契約を解除することができます。但し利用者が以下の事由に該当する場合には、ただちに契約を解除することができます。

(1) 利用者が事業所に支払うべきサービスの利用料金を1ヵ月以上滞納し期間を定め再三催告したにもかかわらず支払わない場合。

(2) 利用者が、故意又は重大な過失により事業者もしくはサービス提供職員に生命・身体・財物・信用を傷つけることなどによって、契約を継続しがたい重大な事情を生じさせ、その状況の改善が見込めない場合。

(3) 利用者がこの契約を継続し難いほどの背信行為を行ったと認めた場合。

(4) 天災、災害その他やむを得ない理由により事業所を利用させることができない場合

(5) 利用者が連続して1年を超えて医療機関に入院すると確実に見込まれる場合または現に連続して1年を超えて入院した場合。

(6) 利用者が死亡した場合。

(損害賠償)

第21条 事業者は、サービスの提供によって事故が生じた場合には、速やかに関係市町及び利用者の家族などに連絡して必要な措置を講じます。また、事故状況及び処置について記録します。

2 事業者は、サービスを提供するにあたって、事業者の責と帰すべき事由により利用者

に損害を与えた場合には、速やかに賠償します。但し下記①～⑦が起因となる場合はその限りではない。

- ① 通勤途中における事故・けが
- ② 職員の指示に従わないことにより起きた事故・けが
- ③ 本人特有のこだわりや自傷行為等に起因する事故・けが
- ④ 利用者同士のトラブルによる事故やけが
- ⑤ 無断での外出により起きた事故・けが
- ⑥ てんかん発作等での転倒による事故・けが
- ⑦ 食事中の誤嚥等による事故・けが

(身元保証人)

第22条 事業者は、利用者に対し、身元保証人を求めることがあります。但し、利用者に身元保証人をたてることができない相当の理由が認められる場合は、その限りではありません。

2 身元保証人は、次の各号の責任を負います。

- (1) 利用者の責により事業者が損害を与えた場合、利用者と共に当該損害を賠償すること。
- (2) 契約解除又は契約終了の場合、利用者の状態に見合った適切な受入れ先確保に努めること。

(協議事項)

第23条 契約に定められていない事項について問題が生じた場合には、事業者は障害者自立支援法等の関係諸法令の定めるところに従い、利用者と共に誠意をもって協議するものとします。

(当事業所ご利用に際しご留意頂く事項)

第24条 施設・設備ご利用上の注意事項を厳守ください。

① 設備・器具の利用

事業所内の設備・器具は本来の用法に沿ってご利用ください。これに反したご利用により破損が生じた場合は、弁償して頂くことがあります。

② 外出

個人的な要件での外出が必要な場合は、職員にお申し出の上で自己責任において行ってください。但し、事故防止の判断が出来ない方や危険な行為が予測される方については制限させて頂く場合があります。)

③ 喫煙

全館禁煙です。

④ 貴重品の管理

貴重品は、利用者の責任において管理して頂きます。自己管理の難しい利用者に関しましては貴重品を施設に持ち込まないように、お願い致します

⑤ 宗教活動・政治活動・営利活動

利用者の思想・信仰は自由ですが、他の利用者への宗教活動・政治活動・営利活動等の一切をご遠慮ください。

⑥ 個別（特別）な対応

当施設において、マンツーマン対応は致しかねますので、予めご了承ください。

⑦ 感染症について

感染症に感染した、又は感染が疑われる場合や、家族の方が感染した場合は、利用者本人の体調悪化及び感染拡大防止の観点から、サービスの利用をお断りさせていただきます。利用再開については、医療機関を受診の上で治癒したこと、又は感染していないことの証明書の提出をお願い致します。

上記の契約を証するため、本書2通を作成し、利用者、事業者が記名捺印のうえ、各1通を保有するものとします。

令和 年 月 日

事業所名

事業所住所 一般社団法人 A型主労支援施設 マリーゴールド

代表者氏名 代表理事 村田 貢範 印

利用者住所

氏 名 印

代理人住所

氏 名 印

続 柄

(別紙1) 個別の契約内容

1. 契約支給量

当該月の日数	ー8日/月	基本 利用曜日	月曜日～日曜日 シフト制
--------	-------	---------	--------------

2. 食事提供サービス

食事サービス希望	有	<input type="checkbox"/> 利用日は希望
		<input type="checkbox"/> 特定曜日のみ希望 (曜日、 曜日)
		<input type="checkbox"/> その他
無		

3. 事業所外支援サービス

支援サービス希望	有	<input type="checkbox"/> その他 常時サービスを利用している利用者が、心身の状況の変化により、5日以上連続して利用がなかったばあいは居宅を訪問して利用状況を確認し、月2回を限度として同意の上で支援を行います。
	無	<input type="checkbox"/>

4. 上限額管理

上限額管理希望	有
	無

個人情報使用同意書

私自身及び家族の個人情報については、サービス計画に沿って円滑にサービスを提供する為に実施される事業所内におけるサービス会議、他の事業所との積の活用するサービスに係る連絡調整において必要な場合、緊急時における病院等への情報提供等、必要最小限の範囲において個人情報を使用することに同意します。

様

令和 年 月 日

利用者住所

氏名

印

家族(代理人)住所

続柄

氏名

印

5. 支払い方法